

# Point

J R 東海 労 大阪修繕車両所分会分会情報

No. 99 2011. 03. 05.

発行責任者 坂東 貞男

編集責任者 教 宣 部

## 被服の再確認で表れる社員を信用しない会社の姿？！

会社は、1月、社員に貸与被服等の確認を行わせましたが、2月、再び、全く同じ確認を社員に強いました。再確認を周知する掲示では「先般、所持状況を社員各自から書面により報告を受けたところ、会社の管理データと異なるケースが見受けられたため…」を再確認の理由としていますが、同周知掲示では「前回の報告は、各自が署名捺印した正式の報告書です」とも書かれており、正式な報告書とまで言っている一方で再確認とは矛盾したことです。

この再確認に際し、社員の間では「先月にやったばかりではないか」「この前の確認は何だったんだ」「この前の確認を信用していないのか」「会社は社員を信用していないからとしか思えない」等の不満の声が上がっています。

そもそも、社員がしっかり確認したからこそ会社管理のデータと違うケースが見受けられるのであって、いい加減に確認していれば違うケースなど出てこないはずですよ。

2回も確認させるのは、まさしく社員を全く信用していないということではないでしょうか？

## 不祥事が減らない、無くならないのは何故？！

現在の鳥飼基地では、ありとあらゆる所に監視カメラが設置され、写らない所はないと言われるほどです。各車両所が入る事務所棟などはその最たるもので、風呂に入る・便所へ行くなどのプライベートな面でさえ監視カメラに監視されています。この監視カメラも会社が社員を信用していないことを表しているのではないのでしょうか？

昨年、JR東海社員のIC乗車券不正乗車が発覚し、多数の社員が不祥事を行っていたことが報道され、会社は不法行為など不祥事に対して文書や点呼等で注意喚起してきました。しかし、今年1月にはJR東海社員の大麻事件が報道され、2年続きで会社の信用を失墜させる不祥事が起きました。

また、会社は社員の出勤遅延を不祥事と位置づけ、常々出勤遅延防止の注意喚起を行ってきましたが、今年度も20数件を超えており、決して減っているとは言えません。

このように不祥事が減らない、無くならないのは何故でしょうか？

「JR東海には約1万7千人も社員がいるのだから、中には問題社員もいるだろう…」という声があるかも知れませんが、会社が社員を信用しようとしなない姿勢に原因の一端があるのではないのでしょうか。

会社が信用してくれないこと、職場でおきる様々な非常識なこと、矛盾した会社の対応などを見れば社員も会社を信用できるはずがありません。従って愛社精神など育まれないのではないのでしょうか。

会社は、社員を「命令・服従・規律・忠誠心」で管理をしようとしています。「命令・服従・規律・忠誠心」では、決して明るい職場は出来ないと思います。

私たちは明るく働きやすい職場の実現に向け、

人間らしく、労働者らしく闘います！